

山元彩子 南インド古典舞踊バラタナティヤム ソロリサイタル

インド叙事詩ラーマーヤナ

Ramayana



2016年12月3日(土)

ブーク人形劇場(新宿南口徒歩7分)

13:30開場 14:00開演

チケット 3800円(全席自由)

要予約(定員70名)

踊り 山元彩子

語り 坪井美香

ストーリー監修 伊藤武

『ラーマーヤナ』は、ラーマの愛と冒険の物語

今もインドの人びとは、ラーマを「演じ」、ラーマを「観て」、
ラーマを「感じ」、ラーマを「念って」、
「ラーマの力」をとりもどすのです。

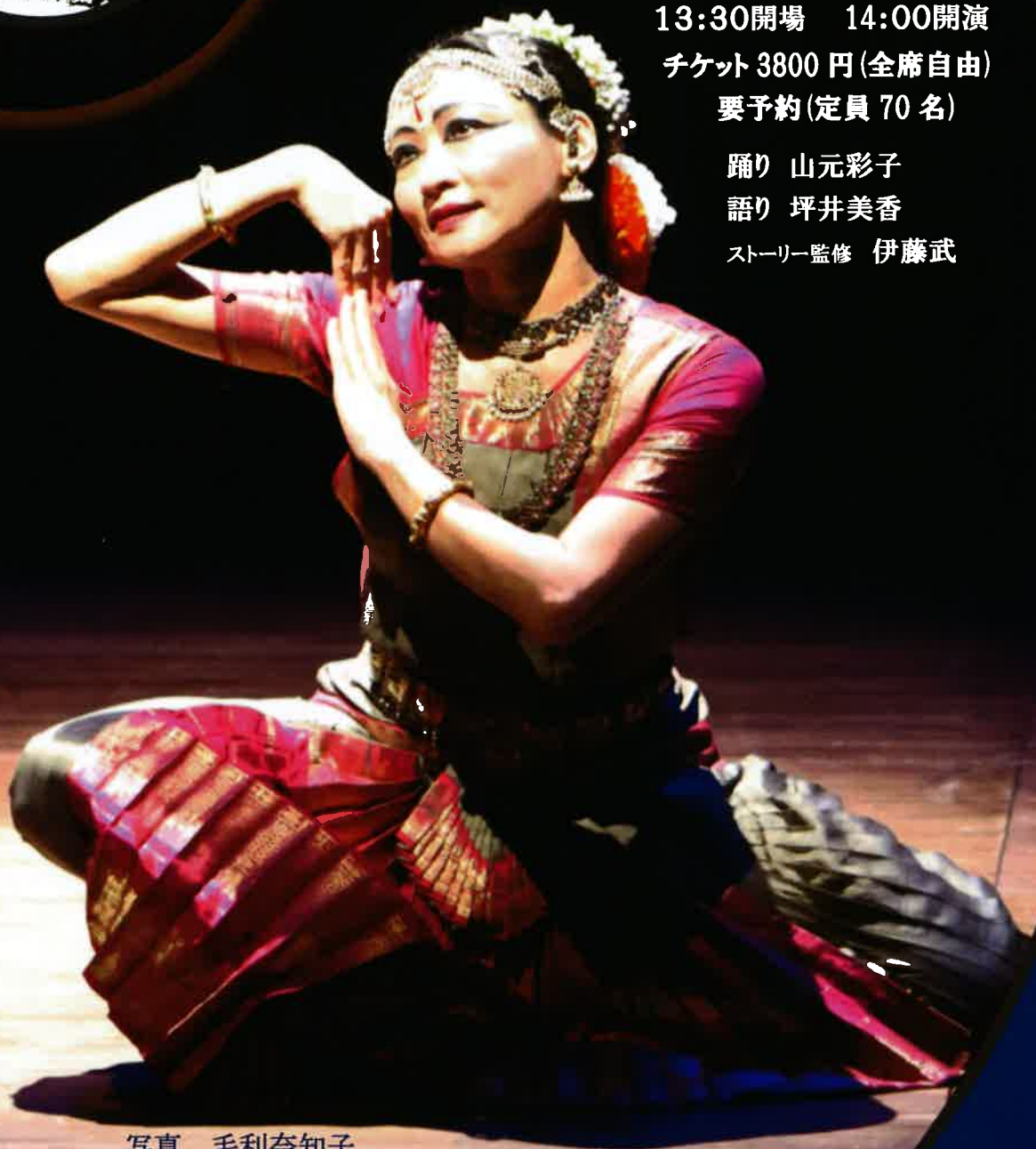


写真 毛利奈知子

主催 ヌリッティヤラクシャナジャパン

協賛 アジャンタ

協力 YAJ

チケット申し込み・お問い合わせ

info@lakshana-japan.com

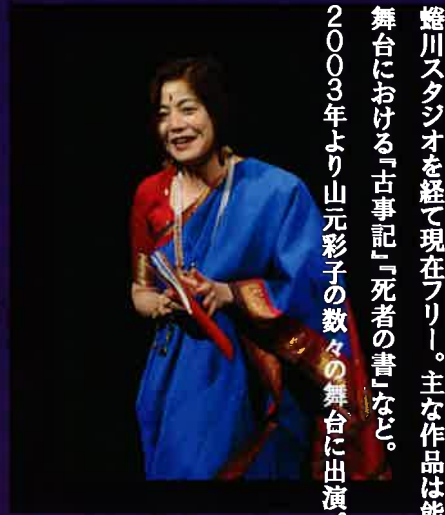
090-7283-4018(山元)

<http://lakshana-japan.com>

「ラーマヤナ」はヒンドゥーびとの血肉に溶けている。かれらの集合的無意識といってよい。人生に必要なことは、すべて「ラーマヤナ」から学ぶ、とかれらは云う。ラーマの何が人びとを引きつけるのでしょうか？「ぶれない心」、「折れない心」、「先を据える」、「忍耐」、「信頼」、「ファイティング・スピリット」、そして「冒険心」でしょうか。 By 伊藤武



山元彩子(マリッティヤラクシャナジャン主宰)
1993年インド舞踊に出会う。
1996年よりインド・チェンナイ在住
A・ラクシマン氏に師事。



坪井美香(俳優)
蜷川スタジオを経て現在フリー。主な作品は能舞台における「古事記」「死者の書」など。
2003年より山元彩子の数々の舞台に出演。

●ストーリー ヴィシュヌ、宇宙の維持をつかさどる神。そのヴィシュヌが、コーサラ国の王子ラーマとして生を受ける。しかし、ラーマは王位継承の陰謀にまきこまれて、妻のシーターとともに森の奥に追放される。シーターは、ランカー(スリランカ)の魔王ラーヴァナにさらわれる。ラーマは、ハヌマーンを将軍とする猿の大群を味方にひきつれて、ランカーに攻め入り、魔王と熾烈な戦いをくりひろげる。そして、魔王を倒してシーターを救出す。ラーマはコーサラ国の都アヨーディヤーに凱旋し、王位について、王国に平和と繁栄をもたらす。

タロットカードの原形ラーマヤナ・カード付

「ラーマが行く」
出帆新社 ¥2,800
〈伊藤武〉
インド研究家、作家、イラストレーター、密教秘伝・マルマヨーガ創始者、YAJ代表
<http://www.yaj.jp/>

プーク人形劇場

●JR新宿駅南口より徒歩7分
●都営新宿線新宿駅6番出口1分
●大江戸線新宿駅A-1出口1分

〒151-0053 ☎03-3379-0234
<http://www.puk.jp/theatre/theater.htm> 東京都渋谷区代々木 2-12-3

純インド料理『アジャнта』祝 60周年

2017年、創業60周年おめでとうございます。日本におけるインド文化普及への貢献に、尊敬と感謝を申し上げます。山元彩子



レストランというより、ムールティー家のサロンとして受け入れられる。それは、ジャヤとスジャータの心のもてなしがあったからこそである。そして麹町に移り、現在に至る。

『アジャнта』はジャヤ・ムールティーとスジャータ婦人の心の味である。

☎03-3264-6955 <http://www.ajanta.com/>
〒102-0084 東京都千代田区二番町3-11
営業時間：11:00~23:30(L.O) 年中無休

『アジャнта』創業者ジャヤ・ムールティーが南インド・バンガロールから来日したのは1940年(昭和15年)1月1日。1947年淳子婦人(インド名スジャータ)と結婚。ある日、ムールティー家のチキンカレーを食べたスジャータは、鶏肉の旨みがスパイスと絡み合う今までに食べた事のない味に衝撃を受ける。ここから『アジャнта』のチキンカレーが生まれる。スジャータの実家阿佐ヶ谷で「カレーと珈琲の店アジャнта」を開業。当時、東京で本場のインドカレーを食べられる店は少なく瞬く間に人気を得る。2年後、九段に移り、インド人からは

